

OASIS の風

ナースコール OASIS 北

-hear your heart-



R3年 7月号

入居者様の声

**F・F様：70代男性：ALS：ナースコール OASIS 北入居中
miyasuku 使用歴 約3年（本文はご本人から聞き取りにて作成）**



午後のひととき、PCで音楽を聴いたり友人や家族にメールを打ったりして過ごしている。手や足は動かないので、ポイントタッチスイッチというスイッチひとつでPC操作やテレビのリモコン代わり、ナースコールの呼出しに使えるスイッチを使っている。口を開けたときに顎でスイッチを押せるようにセットしているため、あくびをしたときにもスイッチを押してしまうことがあるが、それ以外は概ね快適に使えている。

今思い返すとALS発症の最初の症状は左手が動きにくくなったことだった。続いて右手が動きにくくなった。最初にかかったのはかかりつけ医、そこから検査のために別の病院にかかった。10日間の検査入院が終わり検査結果を聞くために別室に呼ばれたとき、担当医が言いにくそうにしているのを感じ、自分から「ALSですか？」と聞いた。最初にかかった病院でALSの可能性を聞いていたため、確定診断は諦めた気持ちで受け止めた。

少しずつ動かなくなる手。

歩くことはまだできたので、これが最後の旅行になるだろうと妻とカナダに行った。7泊の旅行で素晴らしい景色を堪能した。旅行中、妻は荷物を持ったり食事の世話と多岐に渡り面倒を見てくれた。よく付き合ってくれたととても感謝している。帰国後しばらくして、足が上がりやすくなったことに気付いた。段差を超えられず転んだこともある。このころから本格的な闘病生活が始まった。

発症から10年、オアシス北に入居してからはもうすぐ4年になる。去年の今頃、あと1年は厳しいかもしれないと医者から告げられていたがなんとかここまで来ることができた。

この夏には3人目の孫が生まれる。このご時勢なので直接会うことは叶わないが、リモートで顔を見ることができると今から楽しみにしている。



スタッフの声

Hさん：訪問看護師：ナースコール北所属：2年半

私はナースコール北で働き始めてもうすぐ2年半になります。ここに入職するまでは、難病の方と関わったり、文字盤などを使ったコミュニケーションを取ったことがほとんどありませんでした。はじめは、どう思われているんだろう…ちゃんと伝えたいことを理解してあげてるだろうか…と、怖い気持ちもありましたが、なんとか少しでも理解したいと向き合ううちに、怖いという気持ちはなくなりました。きっと伝えたいことがたくさんある、私たちが普通におしゃべりするように話したいことがたくさんある。今入居されている利用者様はもうすでにコミュニケーションツールが確立されている方が多いのですが、色々なコミュニケーションツールを知り、その人の今の状態・今後予測される状態・性格などを知り、その人に合ったコミュニケーションツールを提案できることは、よりよいコミュニケーション・その人らしい生活を送ることにつながると思うので、これから色々なツールを知り、利用者様にここで生活できてよかったと思っていただけるような関わりが持てるようになりたいと思います。

トピックス

初めてのリモート交流会

R3年7月28日に、初めての試みとなる入居者様同士のリモート交流会を行いました。ALSの入居者様4名が参加され、ZOOMを用いてお互いの顔を見ながら自己紹介や質疑応答を行いました。

次号にて詳しくお知らせいたします。

